

3. 本件発明の特徴（既存の製品との比較）

（1）閉鎖式接続器具との比較

- ✓ 本件発明（レジメンキット）は、閉鎖式接続器具の費用負担の問題を解決するために考案されました。したがって、全額保険償還が可能となります。その上、原理として内容物（抗がん剤）が漏れない方式を採用した上、不良品による漏洩事故を防ぐため2重の外袋で覆うので、個人防護服や安全キャビネットを使用する必要がなく、その分の費用負担も回避できます。
- ✓ また、キット製剤ですので、高い操作性と総部品点数の削減による廃棄物量の削減を実現することが可能です。
- ✓ 抗がん剤の投与では患者の体調を見ながらその日投与するか否かを決めます。したがって、高価な抗がん剤の廃棄を回避するために、調剤は投与の直前に行われることが多いようです。在宅医療においては、患者の自宅において調剤を行えることが理想で、それには安全キャビネットや個人防護服を必要としない本件発明（レジメンキット）が理想的です。

（2）調剤ロボット

- ✓ 調剤効率は人の1/10程度で、正常に作動しているか否か常に監視する必要があるようです。
- ✓ ロボットの内部は抗がん剤で汚染されているので、維持管理に手間を惜しむと施設全体が汚染されますが、その費用は医療機関の負担となります。

（3）アイソレーター

- ✓ アイソレーターの内部は抗がん剤で汚染されているので、維持管理に手間を惜しむと施設全体が汚染されますが、その費用は医療機関の負担となります。
- ✓ 購入費用が非常に高額です。
- ✓ グローブボックス越しの操作になるので、操作性は下がります。

図表 1：各製品比較

		レジメン キット	閉鎖式 接続器具	調剤 ロボット	アイソ レーター
購入費用の保険償還		◎	△（一部のみ）	×	×
安全キャビネット ・個人防護服不要		◎	×	◎	◎
操作性		◎	△	△	△
高い調剤効率		◎	○	×	△
廃棄物量削減		◎	×	×	×
安価な購入費用		◎	△	×	×
維持・管理	手間は不要	◎	◎	×	×
	費用は不要	◎	◎	×	×
	費用の保険償還			×	×
在宅医療での利用可能性		◎	×	×	×

以上